

# 特集① 本業を通じた取組み 社会的責任投資への取組み

## SRIファンドへの取組み

### SRIファンドとは？

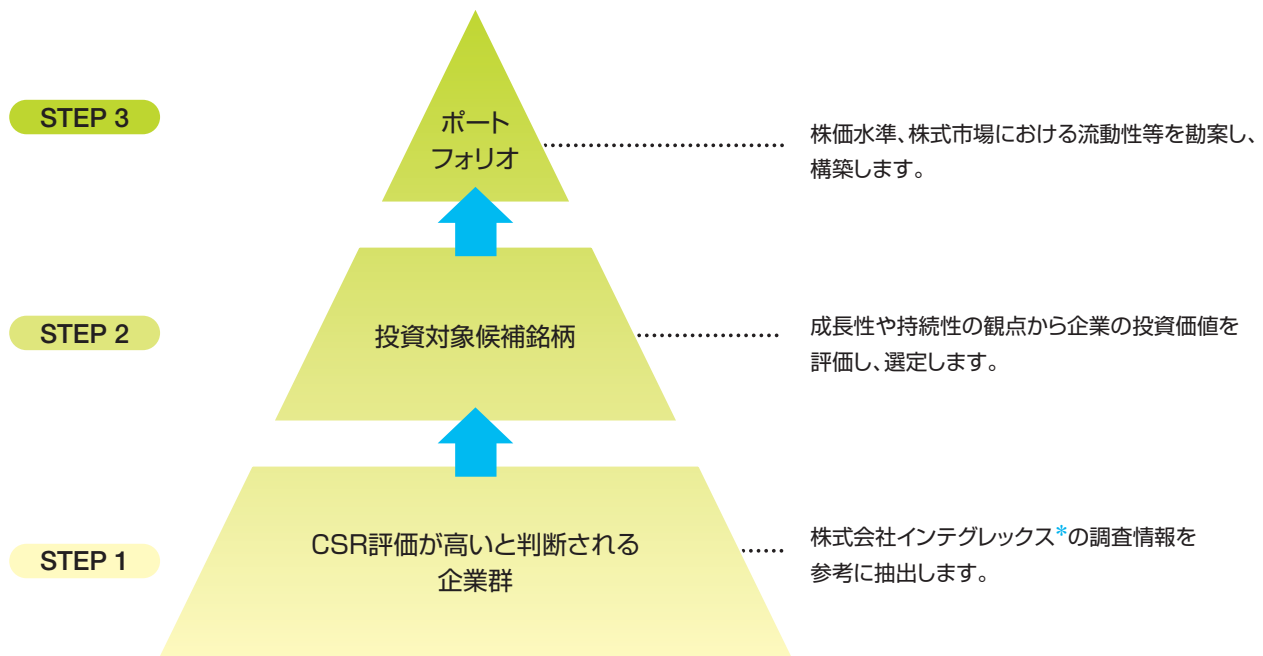
多くの投資家から集めた資金をひとつにまとめて、運用の専門家である委託会社（運用機関）が投資家に代わって資金を運用する金融商品を投資信託（ファンド）といいます。このうち、投資対象企業の組み合わせ（ポートフォリオ）を選定する過程で、何らかのCSR評価基準に照らして成長性や持続性の観点から投資対象企業を抽出（スクリーニング）するものをSRIファンドと呼んでいます。日本で1999年から相次いで設定された、いわゆるエコファンド（環境配慮型の投資信託）もSRIファンドのひとつと言えます。

SRIファンドの各商品は、ポートフォリオ構築のプロセスやCSR評価基準によって、それぞれ特徴が異なります。一例として、「ダイワSRIファンド」のCSR評価基準とポートフォリオ構築のプロセスを図に示します。

### ■ダイワSRIファンドが採用しているCSR評価基準「R-BEC001」の評価項目

<b>倫理法令遵守活動の全体</b>
倫理・インテグリティ 社会貢献・社会責任 環境・グリーン
<b>計画に対する体制とプロセス</b>
経営理念 倫理法令遵守の基本方針 倫理綱領（コンプライアンス・マニュアル） 実施計画、法令ルール、内部規程
<b>実施と運用に関する体制とプロセス</b>
倫理法令遵守関連部署 企業統治 倫理・コンプライアンスに関する教育研修 コミュニケーション 運用管理 緊急事態への準備と対応
<b>監査と見直しに関する体制とプロセス</b>
自己評価 内部評価 自己評価・内部評価を受けての予防・是正措置 マネジメント・システム監査 フォローアップ監査 経営層による見直し

### ■ダイワSRIファンドのポートフォリオ構築の基本方針



\* 株式会社インテグレックスはCSRの定量的な評価を行なう会社です。出資者はすべて個人で、金融機関、事業会社とも資本関係を持たない中立的な調査会社です。麗澤大学企業倫理研究センター（センター長：高 巖教授）を中心に作成された日本独自のCSR規格「ECS2000」にもとづくCSR評価基準（R-BEC001）によりSRI評価を行なっています。

SRI (Socially Responsible Investment=社会的責任投資)とは、売上高や利益などの財務的なパフォーマンスに加え、社会性や倫理性、環境への取組みなど、企業の社会的責任 (CSR) におけるパフォーマンスを評価して投資する手法です。金融サービスの提供を本業とする大和証券グループにとって、SRIはまさに本業で持続可能な社会づくりに貢献できる分野です。ここでは、SRIファンドへの取組み、当社グループ自身の投資業務と資産運用業務における取組み、そしてSRIに対する認識や理解の向上を目的とした取組みについて報告します。

## 大和証券グループのSRIファンド

大和証券グループは、2001年の「グローバル・エコ・グロース・ファンド(愛称Mrs.グリーン)」を皮切りに、2003年に「UBSグローバル株式40」、2004年に「ダイワSRIファンド」を発売。3つのSRIファンドの合計資産残高は30,254百万円で、日本のSRIファンド総資産残高133,623百万円の22.6%にあたります。

なかでも「ダイワSRIファンド」は、企業の誠実さと透明性を評価する日本独自のCSR規格「ECS2000」にもとづく新たな試みです。運用実績は現在TOPIX(東証株価指数)を下回っていますが、中長期的にはTOPIXを上回る投資成果を目指しています。(数値は2005年6月30日現在、大和証券グループ本社調べ)



■ダイワSRIファンドの運用実績

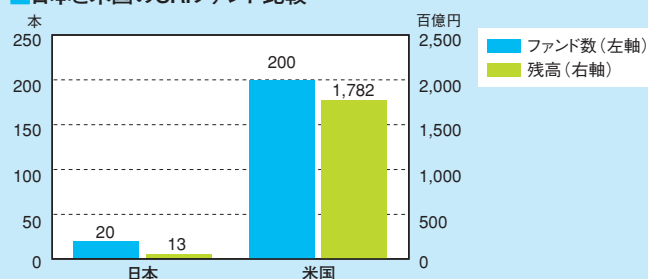


## 日本のSRIファンドの現状

米国では1990年代からSRIファンドの資産規模が急速に拡大、2003年にはファンド数で200、約1,620億ドル(約18兆円)に達しています。一方、日本のSRIファンドは、ファンド数約20、総資産は1,300億円強となっています。

(米国の数値は2003年、日本の数値は2005年6月30日現在、大和証券グループ本社調べ《出所》SIF「2003 Report on SRI Trends in the US」)

■日本と米国のSRIファンド比較



## SRIファンド普及への課題と今後の展望

日本におけるSRIファンドの歴史は、近年始まったばかりです。まだ「SRIは中長期的なリターンにつながる」という実証はできていませんが、CSRを推進する企業の長期的な企業価値は高まると考えられることから、SRIは魅力的な投資手法であるといえます。

また、2004年6月に開催した「ダイワSRI投資家セミナー」で実施したSRIに対する意識調査では、「SRIの考え方が現在の投資行動に影響を及ぼしている」という意見が約35%、「今後、日本で

SRIが普及すると思う」という意見が約76%となっているなど、投資家の関心の高まりから、今後の市場拡大の可能性がうかがえます。

SRIの普及をリードすることは大和証券グループの社会的使命だと考えています。今後、SRIを推進するNPO/NGOへの支援や、自主的な取組みにより、日本におけるSRIファンドの普及・促進を図っていきます。

# 特集① 本業を通じた取組み 社会的責任投資への取組み

## 投資業務における取組み

### 世界銀行カーボン・ファンドへの追加出資およびクリーン開発メカニズム登録

2005年3月、大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツは、世界銀行のカーボン・ファンドのひとつである「地域開発炭素基金」に500万米ドルを追加出資しました（2003年7月に250万米ドル出資、計750万米ドル出資）。また、2005年7月には、地域開発炭素基金の「エスペランザ水力発電プロジェクト」がクリーン開発メカニズム(CDM:Clean Development Mechanism)\*1としてドイツのボンで開催されたCDM理事会により承認されました。

### 「エスペランザ水力発電プロジェクト」の概要

ホンジュラスのインティブカ地域にあるエスペランザ市において、12,700kWの水力発電所を建設し、エスペランザ市および周辺地域の4万人に対して電力を供給します。これにより、温室効果ガスの排出を年間約37,000トン削減することができます。

\*1 先進国が技術や資金を提供し、途上国で温室効果ガス削減プロジェクトを行なった場合、そのプロジェクトによって削減された温室効果ガス相当量を、一定の認証手続きを経て取引できる制度。

### 地域企業再生ファンド

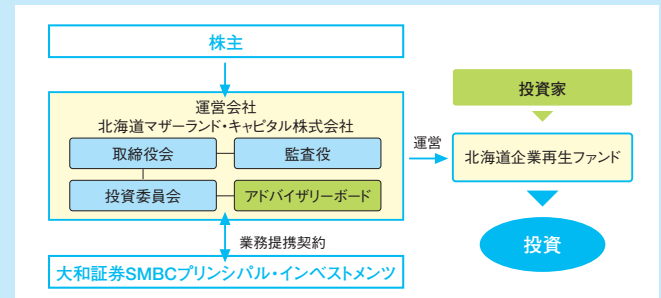
地方経済の活性化や産業の復興のためには、その地域における中規模・小規模企業の再生が不可欠です。大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツは、さまざまな「地域企業再生ファンド」の組成・運営に関与し、金融機関からの債権の買取りや株式の取得等を通じて、地域における中小企業の再生を支援しています。

- 北海道企業再生ファンド：コミットメント総額100億円
- とちぎ企業再生ファンド：コミットメント総額80億円
- 東京チャレンジファンド：コミットメント総額75億円

地域再生ファンド

URL <http://www.daiwasmbcpi.co.jp/solution/sol400.html>

### 北海道企業再生ファンドの枠組み



## 資産運用業務における取組み

### 株主行動

大和証券グループの資産運用会社2社は、投資先企業が社会的責任を果たすことの重要性を認識し、議決権の行使を含むコーポレートガバナンス活動を推進しています。

大和証券投資信託委託は2002年5月に議決権行使にあたっての「基本的な考え方」および「ガイドライン」を制定、大和住銀投信投資顧問は1998年7月に「コーポレートガバナンス活動の目的および基本姿勢」を制定しました（いずれもインターネットなどで一般に公開）。両社では、中長期的な視点から株主価値を高め、受託者としての責任を遂行するために議決権を行使することを基本とし、指図行使にかかわる意思決定のプロセスでは、コーポレートガバナンス委員会規程にもとづいて委員会で行使内容を決定することを定めています。また、単に議決権行使指図にとどまらず、

投資対象企業に対してあらゆる機会にコーポレートガバナンス面の改善を働きかけ、株主価値向上に努めています。

### 地域応援ファンド

大和証券グループでは、地域経済の活性化をテーマに、各地域に根ざす企業で構成される「地域応援ファンド」を組成・販売しています。2005年3月には、富山県下の上場企業の株式への投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長を目指す「富山応援ファンド」を新しく発足。あわせて5つのファンドとなりました。

### 地域応援ファンド一覧

(2005年6月30日現在)

ファンド名	地域	純資産総額
茨城ファンド	茨城県	37.4億円
神奈川応援ファンド	神奈川県	12.0億円
彩の国応援ファンド	埼玉県	41.8億円
静岡ベンチマーク・ファンド	静岡県	71.6億円
富山応援ファンド	富山県	49.2億円
計		212.0億円

## SRIに対する認識や理解の向上を目的とした取組み

### SRIファンドの広告活動

SRIの意義をより多くの方に知っていただくために、『日経エコロジー』誌(2005年4月号)にSRIファンドの広告を掲載しました。



### SRIを推進するNPO/NGOへの支援

社会性の高い企業に資金が流れる社会システムの確立を目指す「社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)」と、アジア地域におけるSRIの振興を目的とする「ASRIA」の2つの団体を、大和証券グループは会員企業となって支援しています。



SOCIAL INVESTMENT FORUM JAPAN



### CSR/SRIレポートの発行

大和総研がCSRやSRIに関して作成しているさまざまなレポートを大和証券グループ本社の「CSRウェブサイト」に掲載しています。

2005年3月の「女性の活用に積極的な企業の株式パフォーマンスは良好」(投資戦略部 クオンツチーム)と題したレポートでは、女性の活用を推進している企業や、仕事と育児・介護が両立しやすい制度を整備している企業は、業績が高いという分析をまとめています。この分析結果からは、女性の活用が株式パフォーマンスに直接的につながるとい因果関係は実証できないものの、女性従業員に対してもCSRを重視した経営方針を持つ企業を選んで投資することは、投資戦略として妥当であると考えられます。

CSR/SRI関連レポート集

URL <http://www.daiwa.jp/branding/sri/report.html>

### 企業年金にダイワSRIファンドを採用

2004年11月より、CSRの取組みが高く評価される企業に投資する「ダイワSRIファンド」を、従業員向けの確定拠出型年金「大和証券グループ401kプラン」の運用商品の選択肢に追加しました。すでに一般顧客向けの確定拠出型年金サービスの運用商品でもある同ファンドを、今後もさらに広めていきます。

## TOPICS | SRI普及の現状

2004年11月に日本経済新聞社の主催する日経CSRプロジェクト\*2が実施した「社会における企業のあり方に関するアンケート」によると、ビジネスマンや個人投資家におけるSRIの認知度は1割程度でしたが、「同程度の企業ならCSR経営に積極的な企業に投資する」という人が9割を超えました。また、大和インベスター・リレーションズが2004年12月に行なったアナリスト、ファンドマネージャーを対象とした調査では、SRIは95%、CSRは94%と、ともに認知度が高くなりました。

CSRの認知度、理解度の向上に伴って、今後はCSRに積極的な企業への投資が日本でも普及していくと予想されます。

\*2 2004年4月～2005年3月、大和証券グループは同プロジェクトに協賛しました。

#### 日経CSRプロジェクト～社会における企業のあり方に関するアンケート

対象:ビジネスパーソン(上場or従業員100人以上の企業に勤務する男女356名)  
個人投資家(株式もしくは投資信託商品の保有者326名) (2004年11月)

項目	ビジネスパーソン	個人投資家
SRIを認知している	10.9%	13.8%
似たような経営、財務状況の2社であれば、「CSR:企業の社会的責任」経営に積極的な企業に投資したい	92.7%	93.1%

#### 大和インベスター・リレーションズによるSRIに関する意識調査

対象:日本のアナリスト、ファンドマネージャー99名 (2004年12月)

項目	今回	前回調査比
SRIを認知している	94.9%	2.3ポイント↑
CSRを認知している	93.9%	3.8ポイント↑
SRIが日本でも普及する	67.7%	7.2ポイント↑
SRIがレポート作成や投資銘柄選択に影響する	35.3%	14.3ポイント↑